

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2026 Jul

第130号

発掘調査
整理遺跡
紹介

新潟市秋葉区細池寺道上遺跡

埋文インフォメーション、埋文コラム、県内の遺跡・遺物



金塊つかみチャレンジ！
制限時間内に出せるかな



2026年度 本発掘調査遺跡・ 整理遺跡の紹介

本発掘調査は村上市上野遺跡、新潟市秋葉区細池寺道上遺跡、柏崎市丘江遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡、上越市下割遺跡・三和区古屋敷割遺跡の6遺跡、整理作業（編集・刊行含む）は上野遺跡、丘江遺跡、弥五郎遺跡、古屋敷割遺跡の4遺跡を実施します。今年度も各地で歴史の扉を開いていきます。

かみの
上野遺跡（村上市猿沢・檜原）



縄文時代後期前葉の拠点集落の一つで、多くの遺構を検出し、大量の遺物が出土しました。今年度以降の調査で、東西の集落範囲の把握が期待できます。

ほそいけてらみちうえ
細池寺道上遺跡（新潟市秋葉区 東金沢）



奈良・平安時代と中世の遺跡で、奈良・平安時代のころは集落の一部であり、中世のころは広範囲な水田が広がっていたと考えられます。

しもわり
下割遺跡（上越市北田中・米岡）



中世の水田、平安時代・飛鳥時代の集落遺跡で、計4面調査します。周囲に排水溝を入れてから、まずは中世の水田に伴う痕跡を探していきます。



おかえ
丘江遺跡（柏崎市茨目）



中世の集落と水田が中心の遺跡で、今年度は室町時代（14・15世紀）を中心とした建物の柱穴、井戸などの遺構が見つかっています。

かみの
上野遺跡（村上市猿沢・檜原）



現地調査と同時に、センターでは多量の遺物の整理作業（接合・復元・実測）を進めています。調査当時とは違った発見がまだまだあります。



2026年度
発掘調査
遺跡の紹介1

細池寺道上遺跡

川沿いで営まれた古代・中世の遺跡

所在地：新潟市秋葉区 東金沢ほか

細池寺道上遺跡は東を阿賀野川、西を能代川に囲まれた標高約8mの微高地上に立地しています。

1991・1992（平成3・4）年度に磐越自動車道建設に伴い発掘調査を実施しています。今年度は、4車線化工事に伴い、前回未調査だった地区を対象に調査を行っています。平成の調査では、奈良・平安時代の建物跡や炉跡、中世の凹地遺構が見つかったほか、遺物では奈良・平安時代の土師器・須恵器を中心に石製品・金属製品等が出土しています。このことから、奈良・平安時代は集落の一部、中世は広範囲な田畑等の農地が営まれていたと考えられます。また、磐越道法線外においても、ほ場整備事業等に伴う発掘調査が、新潟市によって50回にわたり実施され、遺跡が広範囲にわたることが明らかとなっています。

今年度は点在する5つの調査区で調査を行っています。現在までに調査区1と2の南側半分の調査を終えています。それぞれの調査区からは溝と凹地遺構が検出されたほか、奈良・平安時代の土

師器と須恵器の破片が少量出土しています。

今年度の調査でも確認された「凹地遺構」について紹介します。凹地遺構は隣接する過去の調査区でも多数確認されており、その特徴からA～C類の3種類に分けることができます。A類は、①遺構の外周を取り巻く溝、②溝の内側に付帯する凹凸、③中央の平坦面の3つの要素で構成されるものです（写真2）。B類は断面が浅い皿状の溝状の遺構で底面はほぼ平坦なものと凹凸の激しいものの2形態あります。C類は平面形態が方形で底面の状況はB類と類似するものです。

遺構の性格ですが、耕作用の取水施設等と考えられます。また、平成調査の報告において、B類の遺構が、新津周辺域で耕地整理以前に営まれていた、周囲の土地を掘りくぼめて作る「堀田」と形態が似ていることが指摘されています。

引き続き調査を進めるとともに、過去の調査成果も踏まえながら、遺跡の性格等について検討していきます。

（本間千尋）



調査区2完掘（北から）

※調査区1は画角外にあり、調査区2の北側に位置する。



①溝と②溝に付帯する凹凸（青着色部）

平成調査で検出された凹地遺構（A類）



埋文
インフォ
メーション

2026年度企画展 1

「開館30周年記念―地域に開いた歴史の扉―」

5月30日（土）～8月23日（日）（期間中無休）

発掘調査の出土品は、その遺跡が所在する地域に密着した文化財です。2026年度企画展1では、新潟県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査し、現在は市町村に譲与・活用されている出土品を中心に、新潟県の歴史を紐解くうえで重要な遺物を選別して展示しています。以下では、その中でも注目される展示遺物をご紹介します。

新潟市江南区西郷遺跡は縄文時代晩期から弥生時代中期の川辺の集落遺跡で、縄文時代晩期から弥生時代前期の足型付土版が出土しています。足型付土版は長さ約10cmと小さく、子供の足型と考えられます。

上越市裏山遺跡は弥生時代後期の高地性環濠集落で、最高点の標高は92mです。出土した土器は北陸系が主体で、土器類のほかに鉄製の鋤先・鏃・鉋が出土しています。

長岡市奈良崎遺跡は丘陵上に位置する遺跡で、縄文時代から近世にかけて断続的に営まれた遺跡です。古墳時代前期には古墳が築造されました。奈良崎1号墳からは埴文鏡・水晶製勾玉・緑色凝灰岩製管玉が出土しました。

胎内市蔵ノ坪遺跡は越後平野北部の微高地に位置する平安時代の遺跡です。「少目 御館米五斗」と書かれた木簡、掘立柱建物を囲む溝からは「津」と書かれた墨書土器が出土しています。

「少目」は国司（中央から派遣された国の役人）の役職名、津は港のことです。

長岡市大武遺跡は縄文時代から戦国時代にかけて断続的に営まれた遺跡です。鎌倉時代から室町時代の水田の水路跡から、銅製の花瓶が2つ並んで出土しました。

このほかにも上越市中郷区和泉A遺跡から出土した縄文時代中期の土器や土偶、阿賀町現明嶽遺跡から出土した縄文時代後期の土偶・スタンプ型土製品、糸魚川市田伏山崎遺跡から出土した平安時代の八稜鏡など見ごたえのある遺物が多数展示されています。当事業団が県内各地で行った調査成果の一部をご覧ください。（春日真実）



西郷遺跡 足型付土版（左側長さ10.5cm）



裏山遺跡 鉄製鋤先・鏃・鉋（右上の鋤崎が幅7.2cm）



奈良崎遺跡 勾玉
（長さ約3cm）



蔵ノ坪遺跡「津」墨書
土器（高台径6.5cm）



大武遺跡 銅製花瓶（高さ10.2cm）



埋文 コラム

金屋遺跡出土

墨書土器

「咋一女」とは

みなみうおぬまし かなや
南魚沼市に所在する金屋遺跡は、平安時代の有力者が住む集落です。2020～2024年の調査で「咋一女（咋と一は合わせ文字のようにぴったりくっつけて書いてあります）」と書かれた墨書土器が10点出土しています。時期は平安時代前期の9世紀～10世紀で、須恵器の食器である杯類の底部外面に多く書かれています。墨書土器で人名が書かれることは珍しいことではありませんが、女性名で同じ名前が複数書かれることは少なく、一体どんな人？と気になり調べてみました。

墨書土器の類例は、京都府の南にある木津川市きづがわの上かみこまきた狛北遺跡で奈良時代中頃の須恵器杯に「咋女」と書いたものが唯一のようです（明治大学「全国墨書土器等データベース」から）。

記録に残る最古のものは、大宝二（702）年の美濃国の戸籍が正倉院に保存されており「御野國山方（山縣）郡三井田里 咋賣56（アラビア数字は大宝二年当時の年齢）」と書かれています。戸籍は紙に書くので「賣」という画数の多い字が書かれています。土器には書きにくいので、金屋遺跡では「女」と書いてあります。男性名では「咋麻呂」という例があるようです。平安時代前期にも「葛野眞咋女」という名前が見えます。平安中期にも庶民の名前として「咋女」の記録があります（角田2006）。

金屋遺跡の「咋一女」は、集落内の女性リーダーと考えられます。食器に人名を書くのは所有を表すといわれ、「咋一女」以外では「田一女 人カ」と書かれたものが一点だけあります。多くは「咋一女」が管理した食器ということになるのでしょうか。遺跡がある南魚沼市は現在も米どころ新潟県を代表する地域です。最高級魚沼産コシヒカリの産地です。春の田植え、秋の稲刈りは、現在は機械化が進んでいますが、昭和30年代前半までは多くの人手を要していました。もちろん古代も同じで人集めが大変だったようです。「酒食」を用意して何とか人集めをしていたようですが、5月頃は前年の米も少なくなり農家の懐具合は大変だったようです。何度も国から「飲食接待禁止！」のお触れが出ています。この墨書土器も農繁期の飲食に使用されていたのかもしれませんが。堅穴建物から「酒長」と書かれた墨書土器も出土しており関連がありそうです。（佐藤友子）

【引用・参考文献】

角田文衛2006『日本の女性名－歴史的展望』国書刊行会（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団2023『第296集金屋遺跡Ⅳ 第5次調査』、（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団2025『第304集金屋遺跡Ⅴ 第6～8次調査（3区）』



「咋一女」



「咋一女」



「酒長」



県内の
遺跡・遺物
125

野首遺跡出土品 1,302点

遺跡所在地：十日町市^{げじょうかみしんでん}下条上新田地区

遺物保管：十日町市（十日町市博物館）

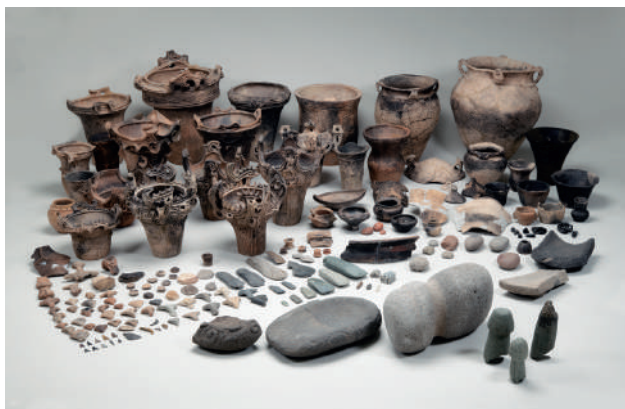
野首遺跡は信濃川の支流、飛渡川^{とびたりがわ}との合流点付近に立地します。1995（平成7）・1996（平成8）年に県営ほ場整備事業に伴い市教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代中期前葉から後期中葉を主体とする集落遺跡であることがわかりました。集落は、上段の集落1と下段の集落2、両者の間の捨て場に分けられます。集落1では竪穴住居13軒、掘立柱建物8棟、石組炉20基、土坑88基、配石遺構群を中心に径が約60mの同心円状に並ぶことが確認されました。集落2では、竪穴住居4軒、掘立柱建物1棟、石組炉3基、土坑2基が発見されています。捨て場からは土器・土製品、石器・石製品が多量に出土しました。

これら発掘調査で出土した遺物のうち、土器・土製品679点、石器・石製品590点、附としてベンガラ塊^{かい}5点、原石19点、石核^{せきかく}9点の総計1,302点が、2026（令和8）年3月26日に国指定重要文化財に指定するよう答申されました。

出土土器の特徴は、中期前葉～後期中葉にかけて連綿と認められる、信濃川上流域における在地土器と周辺地域の影響を受けた土器になります。中期全体を通して東北系、中期前葉～中葉は中部高地系、中期中葉～後葉は東北系や関東系、後期前葉～中葉は信州系の影響を受けた土器が見られます。時期毎の様相と変化がよくわかり、野首遺跡を取り巻く地域間交流を明瞭に表しています。

在地の土器である中期の火焰型・王冠型土器や後期の三十稻場式土器^{さんじゅういなばしき}は、ともに遺存状態が良好で、変遷と消長がよくわかる点が大きな特徴です。土製品では、三角形土偶は多様な形態や文様にみられる豊富な内容は国内随一で、赤色顔料や漆^{うるし}精製に関する製品も特徴があります。

各時期の周辺地域との交流や、集落内における葬送・祭祀^{さいし}、生産・生業^{せいぎょう}などについて、中期前葉から後期中葉までの長期的な変化を明らかにできる学術的価値の高い資料として評価されました。（十日町市教育委員会 笠井洋祐）



野首遺跡出土品 (Photo T.Ogawa)



漆精製の関連製品 (Photo T.Ogawa)



埋文にいがた 第130号

2026年7月24日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL: (0250)25-3981 FAX: (0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: <https://www.maibun.net/>



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。
上の URL からご確認ください。